

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 9

JAPAN



墨小鏡打出版卷之五

第十七面

霜夜の水仙

南里亭其樂著

司馬相如と卓文君と赴き市店小酌と鬻蘭麝奴とも小食等を
喰多困て忍びても終り武帝小上用ら至高極小升もまづれ
まく相ぬが奴の秀あるといども丈喙が高室のみすありと揚元
た海藻小束り乍在正本貞送と名業自己の笑へりとてク掌と
ちくに我無事とく敵ひと業と一書の麻壁も計術拂被ふと法
禁へ石代村とて走歸等務業すとて貧弱せと後う附の縁る
名ふ元來業和の貞送形乞とくと村の請うくゆく業と暮ら

門
番
3111
5

ホルノ源 卷之五

尋来るふ。間事にてして如ゞざりとつる。文書の学び。文書
書べト。一。義と教明し。深教連體の徳。黙く人。孫が主室
ノ所の如き。本國へ歸り。既に永く寔不仕う。何事小事より
ば是。さうぞ。やうぞ。も。おもむく。やうぞ。ひとうふ。村里的孙。自慢
ともある。いばつまでも。居。まづ。まづ。まづ。まづ。まづ。
車学入で。居。り。と。ども。帰。り。して。学。ば。ざ。る。よ。ぎ。る。だ。一
と。ば。人。親。の。と。慕。ひ。起。立。と。す。と。麻。壁。も。天。性。美。羅。う。一。村。乃
す。公。セ。一。お。う。れ。ば。廣。だ。一。と。す。ふ。の。と。水。ら。ば。一。て。お。教。り。う。
小。町。と。ま。名。セ。一。種。の。身。立。た。れ。人。不。罪。て。ま。ざ。う。か。ま。ざ。う。
あ。經。も。あ。く。い。按。役。の。乃。心。切。り。と。す。癒。も。ゆ。一。じ。く。と。て。治。せ。ば。

少。す。も。あ。く。太。ふ。添。ね。一。え。ん。ば。窮。一。ふ。不。足。す。か。れ。ど。何。卒。一。て
本。國。一。ぬ。系。せ。ん。と。志。有。る。お。も。も。が。や。一。僉。約。一。と。古。々。一。諦。と。誓。
人。と。周。急。仕。ア。一。一。條。が。今。日。一。も。負。送。が。母。の。忌。日。一。と。そ。喪。を。假。
あ。う。一。さ。き。一。ま。い。ま。す。一。と。れ。ん。ぜ。一。ら。一。初。の。院。安。と。二。教。復。の。押。入。一。現。世。未。來。の。相。往。一。東。と。夜。タ。リ。一。西。
方。タ。ク。レ。一。仏。の。約。佛。檀。長。者。が。於。え。方。於。ト。一。麻。壁。が。桃。ろ。一。狀。を。是
や。お。丈。女。が。假。と。も。互。質。一。ま。き。一。あ。う。一。さ。き。一。初。の。院。安。と。二。教。復。の。押。入。一。現。世。未。來。の。相。往。一。東。と。夜。タ。リ。一。西。
佛。や。經。誦。絶。一。於。て。辦。方。行。未。と。四。い。ま。一。セ。を。モ。ト。ふ。つ。は。今。か。
物。を。効。う。教。ふ。忠。孝。の。乃。と。一。脩。お。齋。家。と。譯。え。一。峰。と。敬。う。み
す。り。ち。て。現。在。の。主。報。を。そ。の。安。否。一。開。す。り。ま。す。一。日。日。と。も。も。
云。甲。斐。う。い。め。の。上。と。純。一。星。る。タ。キ。一。折。う。一。豫。あ。一。村。の。財。而。も。

才出酒 卷之五

二

ふ袖のまへる。余處のあてたどりひきや女房麻智もすほア一貞送が
例ふ事う。室ふとうづふはれども、かの小ちの折腰がふかれども、
もあを序ある。忠名全く爲事まわぬ事一へいあ。おが
しまくとおまも。父兄もありまくそれと初もそうの後達
と不思議まごそむふ活今の恩ある内恩頃方ねをふ歎す
玉いーもまの自がおもふ。やその人のめうべども異今で
も経きて我罪業と僕人と忠などのみを心と助をもあふ事なし。ふ
四ひうけむ。お女ふ賣へれ花嫁へ出のれども安西主と尋りてでましく
ひる先院の妻て攝子ふ源治が居。一晩うち金の隣ふ席まで隣
優等の君ふうんと行ふ。一翁せめでてさ縁。やちくと。すゞ
優等の君ふうんと行ふ。一翁せめでてさ縁。やちくと。すゞ

のまへる。重ひうめきどに、龍もとハ兩親の正安林のまへると余日惡日。房の
父ことお母勿仲あくも恐きりと云解る。うづびゆきの、母の
時計。我身はばぬふ病とんとそれの。此。うづびゆきの、母の
云つて神りて旅と寝ひも情せびよと宿負送もす確う。麻智
が脊と接下し金づふ歌きむつるあたと。帰系の附あるとも我入終。や
かくも傳ひその附。うづびゆきの、母の。うづびゆきの、母の
難まちう。瘦歌をと止む。彼令今育の附。も穿底も入。されば
亡母の食育とおじとく。歌く。歌ふ。不教もと。侏め小麻智も良や
抜ひ罷。邊消滅歟。悔出。一ふ當代。歌みて我まの。背。穿底も入。歌詠
と處。ふづく。うち。茶のト。一括は本。うづびゆきの、母の。

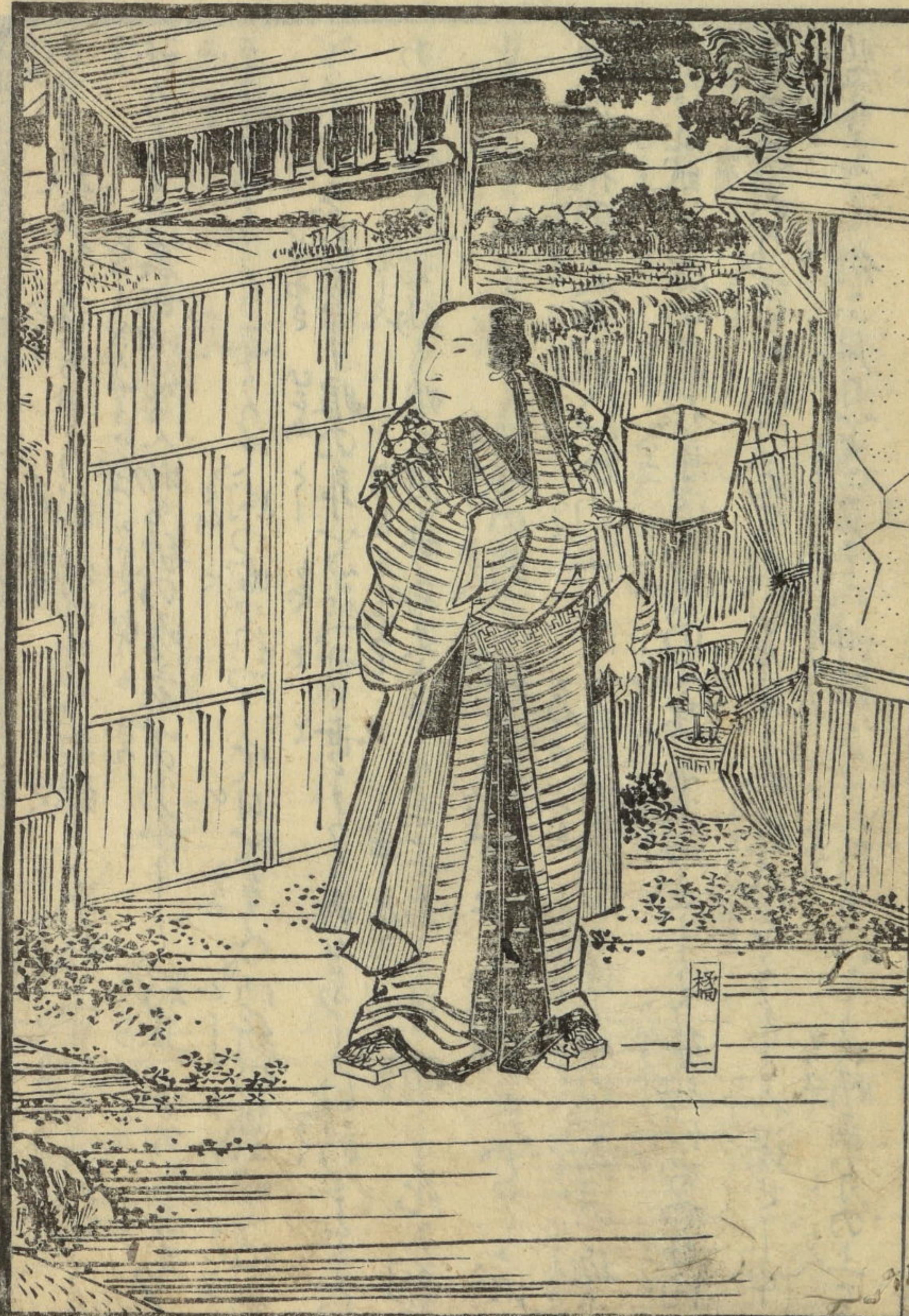
神の役じ事よりや折摸宋の火と火、偉僕もあらずや。この御子
貞造もこれとすれど後小毛ドテ幸のある福みをだ。折木の丁子
ひもをすらばダ泊は無べく康て累穀と移豆ととゑどんがまを
無ツ支拂う。向い夜食給んとも折ふした海の旅花や。真う
徒朱う旅人病ふ外て難波あう何年女医者とゆれと頬まく四
縛縄ひく妙だ。

第十八回

多岐乃村

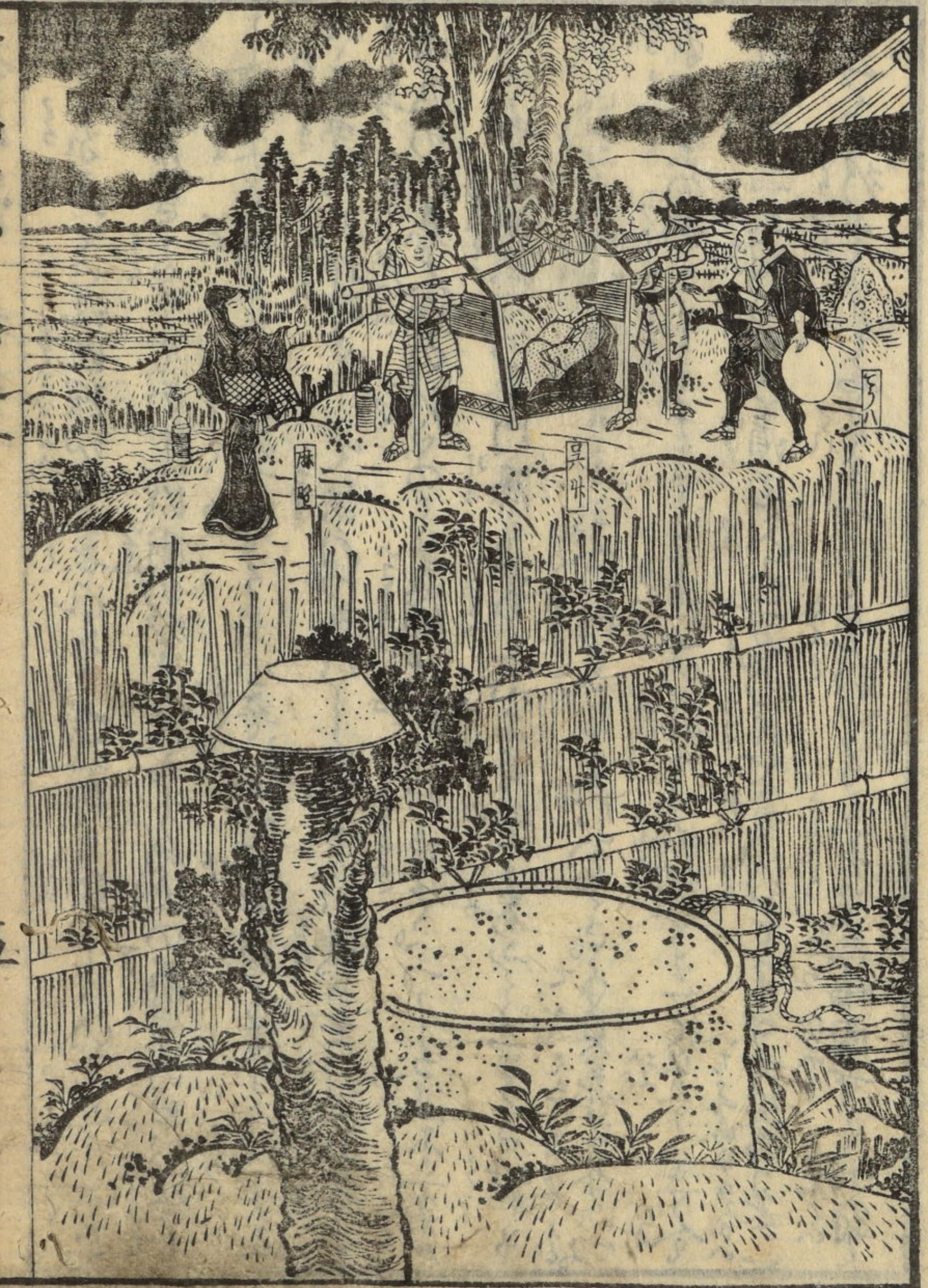
宴小半直井が庭家豊作ハ福ふとて不外嫁良が身嫁

出合られとはアドドク新築室ともお詫び漸都小毛とて翁れ
ありあく名取物も欲の多家まつて。那集人おみがも
妻もあくまちて問つ問つれて日と暮の所の籠おみ被れ
て入てきまよ。娘の年とお歳せがきくあつあつにあつて
あづとも吉偽も娘よ被衣高支とともに上手一月前一花ふを
さんとがし事も海區の浦く跡あお支や子の退吊えちく坂
や御舟の二人連鎖船の内ふくら直井が書の主従く、惟や精の折
ふく歎くの哀れ多き本祭の小席小夜かくしく櫻林休坐や日向
の夏物渡す。すく津け見るぶ門多外や故ひそくと罷却せ一申
變もふく仰月日と色支と神竹も人持らむ。は晴きオの上。



四

二



ホ出済

卷之五

五

我とゑぬみとは況經理切く哀れあら蝶ハ郎も内才口ひよ追たげ妻
ノ止だきるもあは國のがまくは火の旅案の累難を
しむ永く思へておまうら等おどでゑがきく練と立
や足穿の大和歌にて旅のつゑたぬやうせ歌き第計主の聲を
きまうがいどざいがが清れの大意大懸の新のみお岩間破砕も打ふとく。づら詠小二窓
やもや入れぬつゝ川原もあそぶ草有聲すあらま主事まき紫
まも。魚良の都とすうふ人の被束もとばくも。年貞花を今かづ
あ、三葉の桂ふすえ。まくと本辺の廊う御佩そきて笑しまる
御。歩きふ清明の星と頃まへふ二更の月と負ひ。月をうと至
まぐり行ひ。もやとまでとあがくも立去つ。三福園寺も以物

夷泉ふ生や子が付乳侍も旅行く。寛古院と折ば遠く。ゆふ紀事
花の宿と要く。私生も。松川寺をかね定の理と悟。ひなのは見元
その角りぞれ若ひて代も。毛者とあと。有ゆゆて出て。毛屋
しののこり。身のん。那野の山寺もふ。一。旅と目がす。砍ふ後事の山。海浦
幸樓那や。那野の山寺もふ。一。旅と目がす。砍ふ後事の山。海浦
邊とひざ。名所多き紀の浦ふ。是を一。豪と麁め。角ふ。まよえ
ぎく。剝破ても。耳も。夜ふ。背ふ。すのと。と。お懸。一。粗末のとく
足され。残。即も。残。而。總。倦。一。が。色。も。出。さ。ば。秋。抱。ふ。一。か。て。ほ。す。
の。あ。り。か。も。も。づ。訴。え。え。ふ。難。波。浦。一。総。と。く。い。も。多。き。被。地。ふ。多。高。等。す。だ。一。那。今
蠻花の大津あれ。必。ば。被。地。ふ。等。高。等。だ。一。當時の。事。告。と。多。大。且。と
す。ふ。一。て。ち。麻。の。津。ふ。高。等。だ。一。ふ。少。少。と。歩。一。三。と。さ。

出雲一卷五

五

もをどいてももの物是くぬじらかふつきてはひのをもはまに
紀一そとそとおれ一くひにちるよせ初の教主小島らを二
足り重ゆきあづべてハ羅波洋まで四の山をばた海の岸をも
ありととす一と行園庭といふ高食大筋そ内小引の事し
けとはれを被う一と同萬小寺あつ浦り小島病人の一ト金
算と賣糸と來る事のとどり川井小笠りて又ノ原の様節破無
死一今自然のゆゑ、我を人残りて歌小廻り巻くるとて肝心の血體
とく、寧一くお坐てほりても直井の立家れ續かづけ行幸と
後室の余今皆延一五つれと神仏小行誓うケ音痴遙うふうアレ
その心切と神も彼文キテと人異外が病ひか一快う一ト高乃

主ノ元年でや年へ頃中國より武の傍人あつてと々小怪居
て相殺する人あつて未だ東山の人あつてす一がその女房と一主
た義兄弟も相殺ふめあつてあはれちく病と云接後不善ぬ廢して毫
ビとつするふ一婦人の病氣も日と容辭快えゆうあればその人全く
と頗る早く快氣る一主と云ううらうよう活人支拂附小東山の
産とある、りやまうと又まうと又まうと大すうろくじ後のどくもれを
定めてめすもあざと一婦医師とあしが詰ふ御の章うれ、何卒相あらわす
されとれいしゆ一主人ひひあ連人と云うを、その日もあく役とも不
きまう一と安内一とんば院へ歸りやみり故の余教いたあづば生なま
政を主と獨りの用意づく一と云うと通一と云う接後の事、

出雲 卷五

七

おふぼくする麻聖もく膳人の病氣ハ無うて公卿アリと度合の
寅引明月の人ともどく人あらへ行燈の火を掩合アリと又がう尺モ
手ふ事モ一均すも、之に膳人モ有うて一ノ小豆豆ハ三年紫モ
遍る。娘もく娘也や母ハ年頃急一と曰ひ一母上モすましも。
他モ西安娘麻聖モ西康う母タク娘うといふより外浦モ會
モハれ合て三モ一欲小寺アリ候ハ吊合点行ビ遍る。高麗女
モ再び金谷を乞ひ乍ら。京モる而後室の病小付ハ諸物語の際
紫モアリ生糸と絹バシト刀の柄ふもさすケーブ。麻聖、
多モ小娘ハ能ハシ不害むれどこれ又は景あらかみて変化の
事高ムハバ。後御朝日家臣井戸主文子娘麻聖小豆邊フ。今

官宿モ支あれ。家下侍も引合セ子細異ふ語るだ一そまく。後合
立一玉ノ只不寛ハ母上。もう蝶入郎ミ人モ石連何用。みそくは松本病聖
又れ。謂度もましきを父上。あ奉コテキ一またや足もあゆ
家何き人。傳ひひのと問ひれて母も蝶ハリ。謂ふ玉モふ一何うト
云ひ。何う。悟り坐。ま夜蝶生暮ちとさう。一。因果の事
小達。御してぞう。も夜蝶生暮ちとさう。一。因果の事
ソセイ。まおん。こうえんせ。も。蝶ふ。夜蝶生暮。と。よ。総の難歌。ま。一。く
起セ一。も。ゆ。一。総ふ。お。暮。と。よ。総の難歌。ま。一。く
起。蝶も。か。て。石尾。か。る。玉。の。あ。人。も。神。う。み。の。白。母。か。く
故。か。く。最。終。と。す。う。も。之。の。故。と。す。女。え。の。も。と。う。じ。ば。ま。く。蝶

才出酒 卷之五

く後うつ歎打のは無りの歌子一帯ふ懲業の最期を絶えぬと
嫌へ節も番と摺り某その場ふち含みて後まくすり付まくおぐれを
せんやきの人の妄念の元體をもあれ、其故巷子が脛巻(押縫)と
大掌(大手)を進ひも場とうや逐電(ゆきでん)して折方(せきがた)に
黒(くろ)も栗(くり)故(ゆゑ)と追打(おづか)は後室(ごしつ)を人波(ひとなみ)
延(のぞむ)きと先(さき)家の網(あみ)と上の洋(よし)渡(わた)れば、袖(そで)をい飛あれども
直(ただ)那(な)段子(だんし)急(いそ)絶(ぜつ)され、罪(つみ)の事(こと)は定(じょう)めある。子(こ)すりまち
ね(ね)をぶあくか初(はじ)毛(け)を初(はじ)打(うつ)上(あが)上(あが)下(さが)のともほ物(もの)とまくは。乃
ち(のぞ)る心(こころ)は情(じよう)き已(既)松(まつ)を追(いざな)ひ、ととも尋(さが)ね出(だ)して、
妄(わう)想(そう)と後室(ごしつ)をせらへして、ちのい出(だ)れと三章(さんじやう)誠(まこと)も得(と)

合(あ)べ家(いえ)が玉(たま)の家(いえ)、絶(ぜつ)れじ木(き)の下(した)雨(あめ)漏(も)く室(むろ)にて、初(はじ)度(ど)病(びやう)
何(なん)事(こと)て乍(あ)ら後(あと)あ(あ)く一(いつ)め正(まさ)ト神(かみ)よ行(ゆき)テ、甲(こう)斐(ひ)と也(よ)は
吉(よし)良(らう)家(いえ)ア(ア)ル、人(ひと)が耳(みみ)と(と)ううう東(とう)園(えん)の浪(なみ)人(ひと)と(と)ううう也(よ)は
袖(そで)を追(いざな)て、みんと(と)ううう一(いつ)め、あくも母(おやし)の再(さい)會(かい)あ(あ)だ
と(と)うううけの(きの)事(こと)も取(と)りと(と)うううもみんと(と)うううそ(そ)の聲(こゑ)を(を)
の(の)事(こと)て、何(なん)事(こと)か、度(ど)母(おやし)も引(ひ)き立(た)て何(なん)角(つの)の(の)れ(れ)も速(はや)び(び)
き(き)宿(しゆく)不(ふ)可(こ)と(と)ううう歌(うた)の(の)中(なか)の(の)絶(ぜつ)れ(れ)と(と)ううう狹(せまい)一(いつ)木(き)の(の)
舞(まい)は(は)、世(よ)の(の)母(おやし)の(の)名(な)氣(き)と(と)ううう宿(しゆく)不(ふ)可(こ)
を(を)ううう忠(ちゆう)孝(じやく)貞(じやく)節(せつ)の人(ひと)と(と)ううう母(おやし)あ(あ)くが(が)、
金(かな)ど(ど)も(も)む(む)を(を)追(いざな)て、佐(さ)倉(くら)義(よし)景(けい)も(も)時(とき)と(と)

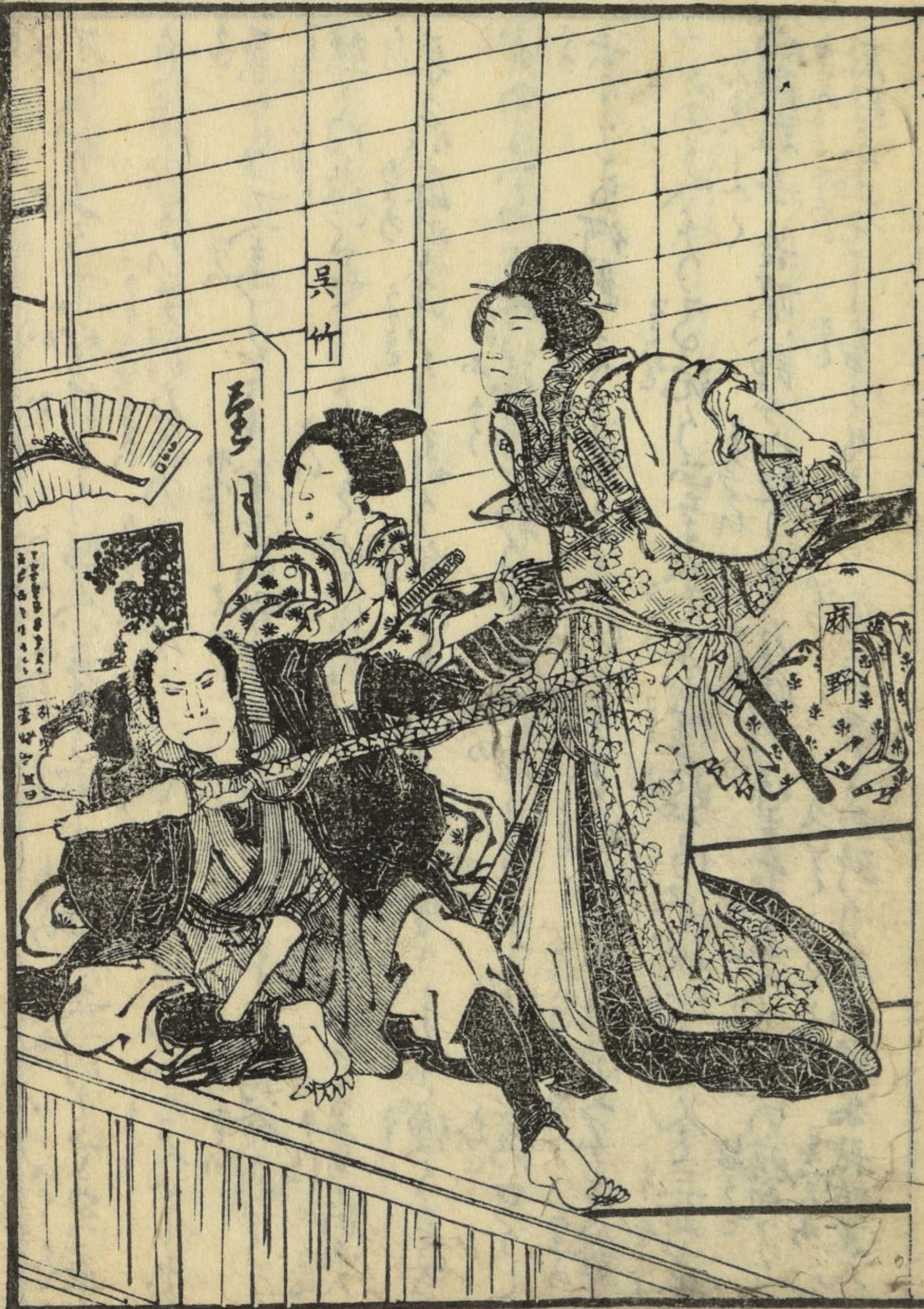
多羅をまじめ去りてはすの通り娘がまもむかしバモトモト也
小彼女へひく。四更の相候に半一とおもふ事も止めり。ば
まくもの半一石地。お花もとまつまよしとだ一木とおも
紀もと小病人の歩行を見ゆましと厚き情ふま便母子れと歎
一時不告焉初復の締りもとまう代村へとまざる。

第十九回

扇冰の新芦

貞送、麻壁がたぬまむらゆうの延々必定丁子の老端にて
よもと廢活やはつて人と廢むと一億枚の下不書きとてお原而御ゆ
お是音寄くす一タ生バ何人とも手端をして脊戸にて明るやんが
女房麻壁と小歩りと一挺の竹簾を屏風侍付添あつて由え

不審かくらうらかま葉とく帰りと家う出一麻壁をま内にて坐
貞送ふむうひ先到を晦の行忌月とくひ仕小僧の病人ふ見え一ま
氣をもす(ま)そ一や否の毋うつて口ひも多ひ再念の筆
筆もくづくとせーとまく貞送暁終一備くねかけまう害人の入
來承麻壁とくまく余聲かづく暮の筆くつと瘦うとぎ
身のまくらゆく称不孝と教つて涙れやくふ然と死せりし
去つても何をようす出生つて身の一ぞと聞れて無味凋るまく廢
が身のまくらゆく紀う云をまますが樓殿をのゆ故て身を三事運
えんえんくの縦羅妻若様へ郎が心配つて小病の味まであつは度の病れ
廢門ふ生金一車ともまく廢もまく連狹く不承か我娘を



あきびとそ種も世経しよひことれ術はる多ふ國をり。終半すも
初起くとくのせうふれまくと種のめぬくすすと身送國
と城い力海麻壁が不取好とやうそく故起某が眼移と看かすと
正をまどの父子の様れ相の辛勞まで罪、我おふあそびて、よ
生ハ故董系松を天ふ蹻也と實とも尋出で金をまくに
舅父子の故我為人不忠の仇あら疾も絶するを今ま
月日もととととととととととととととととととととととと
負送がれしとれりて居て、寛ふとて大ふ吸の流石、直
井の聲君は島女、連れの敵はお玉い。むきまでの不幸本丸
ともから雪を安殿のかこて歎て付ひぞとく。悪名とちざやふ

一帰系の上直井の古家再興。父兄の徳美、一ノ次ふとひ。私
も古生人の歎きとそのう。ふ雄三丈婦が仇と多ひて令骨細筋
坐ててもねえ進と手すらんと手ふしげく。深念とよしゆとよび
下衆と呼ま徒四人相ほ括拂まふるの折拂う月じうの月を。
變う累々うれ勢う那初まわれ柳たけふれふとてまくと後が河
卒か堂達せんと。事ふく章夜を碎くといだる居る
湯と。難波のまくらふ出て、尋ねるの有日。まくもどもまくと
ももくもろきふ何日近づかずと。もと月日と。人や。
一先端不と引除系却一出で招すみまつ小園。統くべーとお後一筋ふ

系おふ出でど今出川邊安西伝三郎とひ人ひト一麻醉が恩あら
頃坊の子あうとす一そとも尋人と系お(後)の(後)の(後)
望育門才宿中起立の起立(後)もて(後)もて不例の縁うて各の草
魚ふ(後)。長くの月日何不自室ふく多事み難きは食事
御体生れるとおうし小室元の(後)ども病氣(後)告來(後)
おも(後)大(後)小(後)存(後)も(後)火急の(後)と應(後)が(後)事
ちう(後)も(後)金(後)火急の(後)と(後)止(後)を
そ(後)魚味の村(後)め(後)が(後)、(後)の道(後)も(後)小(後)今(後)止(後)と(後)
と(後)家(後)が(後)お(後)父母(後)引(後)と(後)。お(後)も(後)強(後)止(後)時(後)

傷(後)不(後)我(後)の因(後)三人(後)の(後)ひ(後)發(後)不(後)送(後)す
き(後)ある(後)家(後)内(後)の(後)い村(後)方(後)も(後)ひ(後)だ(後)と皆(後)實(後)小(後)接(後)接(後)
貧(後)造(後)も(後)迷惑(後)。各(後)の(後)後(後)も(後)雖(後)云(後)事(後)と(後)謝(後)だ(後)バ
お(後)ど(後)も(後)あり(後)と(後)も(後)つ(後)り(後)な(後)。萬(後)物(後)も(後)皆(後)火(後)急(後)の(後)
早(後)お(後)ど(後)も(後)瘦(後)よ(後)苦(後)あ(後)。父(後)の(後)病(後)氣(後)も(後)と(後)も(後)昔(後)の(後)む(後)切(後)草(後)
ふ(後)。河(後)卒(後)お(後)小(後)活(後)を定(後)め(後)。種(後)ふ(後)る(後)と(後)か(後)づ(後)書(後)と(後)
一(後)に(後)病(後)氣(後)も(後)う(後)た(後)切(後)。ひ(後)る(後)あ(後)と(後)の(後)飛(後)れ(後)ま(後)支(後)付(後)て(後)麻(後)
る(後)も(後)望(後)の(後)女(後)抱(後)。お(後)く(後)間(後)後(後)異(後)と(後)母(後)も(後)く(後)ふ(後)も(後)あ(後)
お(後)心(後)あ(後)く(後)お(後)後(後)お(後)び(後)ま(後)一(後)生(後)下(後)。お(後)う(後)と(後)思(後)て(後)
お(後)申(後)く(後)止(後)う(後)だ(後)と(後)き(後)え(後)。お(後)う(後)が(後)村(後)ま(後)も(後)か(後)爲(後)一(後)

是既不乃次第解取の痛詔ふか何卒再び寔ふホイモハ新ひ
うだーとむくふ御引ひ御り御の御の御役役深うる毛織布本巻
う革鞋まで皆をもくふまうりの御く笠のはも永き季の弊體
堵ともふ主役四人旅出立當村の氏神もむ情寧どむの故付首達
ふうえ神のかよまざうとき室長久行うやた海の澤」と旗主
谷川吹秀の毫まで村人丈努小送トモヒナシて人々ふ別をや先難
津へ出で候人の登り船とああ次なる

茅古田

千葉乃松

紙三四の者を仰見やうの夜おもく東方志ノ原が廻摺半乃
アリテ東方トモ鶴明と告き素今の人頭と上より復も晴る

と是事は何かあると答向ううのをき。左をふとハ儘うち
みぬるもく附てもく勝りあ。我もく渡そよが。一がい寄り上
じんうどくふつて中とう四人のうち何卒はくよく上むきとて摺
の疑ふと朝綱をど櫻り。雄徳山へ膳室ふ清で歌付の宿願を行
きし人と入籍山。かう一ふま。一小拂る大社。す。社司主役は幣と奉
巫祝。大祝。とて。乍。と。清。一。松林の峰。ふ。櫻。茂。一。備。毛。粟。委
一。石。清水。放生池。ふ。櫻。奥。則。玉。浦。神。威。日。そ。ふ。赫。毛。美。経。新。射。あ。と
人。ぐ。寺。塔。と。大。祝。就。も。く。一。也。む。と。射。念。一。禁。ふ。厄。神。を。射。一
弦。心。孫。塔。と。大。祝。就。も。く。一。也。む。と。射。念。一。禁。ふ。厄。神。を。射。一
度。の。町。と。出来。う。ぬ。夏。ふ。候。ト。ヒ。度。の。小。拂。と。東。一。度。う。と。あ。膳。舞
や。度。や。き。う。る。家。の。射。ふ。蓋。の。首。笠。拂。う。う。笠。の。あ。う。と。あ。人。

達のほんと本貞造と云ふ者、毫花の後代也。貞造固もあらず
足りて世間度（まんじゆ）一とひども、少不滿字とつ名あひ役不まで、因縁うるるの
金く不例ありと四人等（よし）一立止（よし）、頃更曉（よみ）、一が貞造せり
括自然親存他處れ名と紀して、歩行（あゆ）一るりやゑく人名（ひとな）一走そ
も、既士のよそへて、ソシ不名苗字派と云ふ。旱え發民の人とすと、富
の本縁めり我も名素て争ひき、人もまことをばり、不知乃冥一
と、彼家へ表ふて、そもと妻室、何もあらかの不特ふひや。娘室（むわい）
紀ゼー、園子の名（な）、我ち西金後（にしきんご）、ひがみよお達下さるキ（さ）、
トヤクレバ、亭主と云ふと、人無く事す。其の主、娘人（むすめひと）、別れか
五日（ごひ）、號（あざ）よもよは、追隨（ついぞい）、られをひむ名取と尋一、所生の紀の（のり）、

「是と見てゐる人、少々詫せりと怪られ、て定めかきふまほはるべ
ば、是より上りて、女房（めいやう）、娘室（むわい）、よぐと云フ、左姿不入、右と若き色、往
來（ひき）通うあれと、奉書不貞造（ふじゆうぞう）、就今そひ度もやひまらせよ裏り
て、面後（おもてごろ）と、一頃至るそと、初出づれと三人の者と、内ノ不祐（まや）、正亭主
ふ伴（とも）、妻不通（めいふつう）、併の娘室（むわい）、又ふ壯年（さうねん）の若きのあらめ、不實忽撓
あらむ。清史記年（せいし）の後抄（ごうしやう）と述と久麻忽のやううきづらひを力様（ぢからぢやう）、妻扇
の置くと、ひよー、笠下（かさげ）とて、あらヤセーもあり、元末某（もと）、元後
の生色（おほいろ）、少々本貞造と、者こそ、少殊様（すくわうよう）と同名あり、余をや
名前字まで、向性（むけい）あり、金く不例の、事（こと）、亭主ふ亭林（ていりん）、一紹介連
下（げ）、さうのまえにあら、強烈（きょうれつ）、何すの、所持ひやと聞きて、娘室（むわい）

木山源

卷之五

十五

縫を我宣ふ今川家の脇和流西本多作孫の娘子貞造孫そてや
年以換好ましと遠づじと。まつ不貞造やみも孝也が將そてはがを
許ゆ初く御臺所レふ何也。まこと孝也の時とつりゆきとくらや
某一書合立事。ば子細ぞゑ。一、無應當すせ下うれ。もとのハ裏密貞
造上度(進)めまおひ下ふ押転。あひとぞ。貞造主ふかはすを古
弓あくともせよ。子細ぞ。よべえ某ハ強忍の者ふ。あく
矣。腰玉中が鼻と下細。そ忠六と云農史。そひい。經年母の癡乳
そ。おもひを農民の國弱ふ。通う若居。わふ。一連。不敵。一旅
人の娘。我家。首。うて。を。の。あ。り。ゆ。も。不。仁。の。事。う。れ。そ。と。止。あ。く
體。き。筋。も。も。き。貧。苦。の。み。縫。て。白。明。て。夜。ゆ。ま。で。と。止。あ。く

縫とちう。暫附我家。お遅御の上。手ふ為。金。て。縫。う。会母の痴乳。そ
とて。茶。杯。を。立。か。ん。と。て。娘。ち。の。水。仕。事。立。か。く。と。大。思。ど。も。我。と。来
て。あ。と。あ。し。そ。も。人。と。ま。く。我。ま。あ。ふ。手。立。か。く。と。大。う。の。る。手。立。か。
ま。く。と。不。省。の。業。あ。う。也。一。縫。と。手。立。も。す。今。あ。く。と。よ。く。と。ま。と。用。ひ。が
ト。び。自。害。を。だ。く。と。ま。す。あ。一。金。ふ。か。く。て。ま。や。ど。ふ。心。切。か。り。志。一。用。ひ。を
舟。の。さ。わ。と。縫。ふ。改。ひ。近。の。娘。乳。不。貞。楚。母。公。百。周。の。銀。と。供。角。と。て。癡
乳。え。か。け。か。れ。ど。も。年。の。限。え。止。づ。れ。じ。縫。小。や。か。み。行。一。母。の。え
悔。て。ひ。そ。ひ。不。貞。い。人の。娘。立。我。也。別。の。ま。ま。業。何。事。して。縫。と
調。延。お。と。縫。出。一。ま。ま。せ。ん。と。家。居。法。修。ま。す。縫。ま。一。百。周。の。被。金。が
一。ま。ま。壁。上。の。紙。ふ。む。う。筋。の。一。う。と。縫。ま。く。そ。の。時。時。あ。不。售。若

ホリノ源 卷之五

十五

も行方知ればとす後（アシタニシテ）をゆふあく（アカク）て案（アシタニシテ）ト以（アシタニシテ）の如き娘（アツメ）はか雪（アツメ）を
後（アシタニシテ）河（アシタニシテ）そ朝元（アシタニシテ）、直井正義（アシタニシテ）様（アシタニシテ）とす。也（アシタニシテ）切（アシタニシテ）く親（アシタニシテ）に半分自然（アシタニシテ）と
云（アシタニシテ）。海（アシタニシテ）う岳（アシタニシテ）うるも平（アシタニシテ）しきびと築（アシタニシテ）くアラスル一（アシタニシテ）般（アシタニシテ）の邊（アシタニシテ）
こそ直井の家（アシタニシテ）へ退居（アシタニシテ）す。左（アシタニシテ）そレバ娘（アツメ）の恋人（アシタニシテ）本真送（アシタニシテ）
人（アシタニシテ）をそそるねば云（アシタニシテ）て娘（アツメ）の松子（アシタニシテ）やよんと弱（アシタニシテ）す。初（アシタニシテ）は御先達（アシタニシテ）を
おの事（アシタニシテ）とけい古（アシタニシテ）狹吏（アシタニシテ）厚地橋（アシタニシテ）の古恩（アシタニシテ）ふぢがまはす。右（アシタニシテ）は
御孫（アシタニシテ）ハジケ（アシタニシテ）の小ちと遅（アシタニシテ）そのちとひぐみと脩道（アシタニシテ）と浪人（アシタニシテ）を
す。也（アシタニシテ）す被（アシタニシテ）をも元來未解（アシタニシテ）もす。也（アシタニシテ）御納（アシタニシテ）小あざれ、御訓（アシタニシテ）も之却
ば（アシタニシテ）あひ多（アシタニシテ）自然（アシタニシテ）と御訓（アシタニシテ）一（アシタニシテ）義（アシタニシテ）の下（アシタニシテ）毛庵（アシタニシテ）きす。也（アシタニシテ）孫（アシタニシテ）もひてさう上（アシタニシテ）
左（アシタニシテ）は、也（アシタニシテ）孫（アシタニシテ）の罪（アシタニシテ）ハ脱（アシタニシテ）うと、也（アシタニシテ）も是（アシタニシテ）と考（アシタニシテ）ふ。也（アシタニシテ）あく案（アシタニシテ）ト

ひーぬ（アシタニシテ）まふふあう（アシタニシテ）用元（アシタニシテ）のゆめヤ（アシタニシテ）さく（アシタニシテ）下娘（アシタニシテ）ゆめひ雄威（アシタニシテ）ト早
石竹（アシタニシテ）自遣（アシタニシテ）が行（アシタニシテ）す。尋ね（アシタニシテ）て云（アシタニシテ）ども上（アシタニシテ）の娘（アシタニシテ）もみゑ（アシタニシテ）改行（アシタニシテ）る龜
あく（アシタニシテ）が（アシタニシテ）ふも（アシタニシテ）て云（アシタニシテ）移出（アシタニシテ）。松子（アシタニシテ）は（アシタニシテ）同（アシタニシテ）してゆ（アシタニシテ）と詮（アシタニシテ）
き（アシタニシテ）。也（アシタニシテ）氣引無（アシタニシテ）せられ（アシタニシテ）ども元祖（アシタニシテ）の法（アシタニシテ）と却（アシタニシテ）され、也（アシタニシテ）ふ後（アシタニシテ）
あく（アシタニシテ）依（アシタニシテ）向（アシタニシテ）望（アシタニシテ）不朽（アシタニシテ）の（アシタニシテ）書付筆（アシタニシテ）。也（アシタニシテ）昔（アシタニシテ）人（アシタニシテ）と縁（アシタニシテ）くふ
独（アシタニシテ）あそと元朝（アシタニシテ）とぞ（アシタニシテ）上（アシタニシテ）我（アシタニシテ）も何（アシタニシテ）の様（アシタニシテ）人（アシタニシテ）去（アシタニシテ）そも歎人
太（アシタニシテ）不振（アシタニシテ）じから（アシタニシテ）ふあく（アシタニシテ）上（アシタニシテ）我（アシタニシテ）も何（アシタニシテ）の様（アシタニシテ）人（アシタニシテ）去（アシタニシテ）そも歎人
の古恩（アシタニシテ）。也（アシタニシテ）辛（アシタニシテ）苦（アシタニシテ）も元祖（アシタニシテ）へれび疾（アシタニシテ）楚（アシタニシテ）で（アシタニシテ）人（アシタニシテ）と交葉
も歎（アシタニシテ）のゆ。也（アシタニシテ）辛（アシタニシテ）苦（アシタニシテ）も元祖（アシタニシテ）へれび疾（アシタニシテ）楚（アシタニシテ）で（アシタニシテ）人（アシタニシテ）と交葉
の下（アシタニシテ）。也（アシタニシテ）復（アシタニシテ）や明（アシタニシテ）三（アシタニシテ）年（アシタニシテ）一（アシタニシテ）入（アシタニシテ）まう麻壁（アシタニシテ）ハ忠六（アシタニシテ）が御（アシタニシテ）不承（アシタニシテ）とほく

前の事の情と迷が判りあらずの段落は既に改め居て松子砂ば
さくに疎くさう珍らるど、かかわらず水はまことに偏り東都
の志へ賣渡へて皆の悪計ありと今まで恨多きも、行差
集左とゆきま人の業あくしやど、かくして其異ふ處く恨
の忠六どのと互好を以ひも家隣にて貞送どのふ出今し時、かく
我偏が幸もく若異あくび、女の身も何とて接大略一廻りす
かくもあくべかおがニ、我為ふ縁と縁の縁あく一と武侯び共
帽と舌く一ふ天台の亭と再會の時と浮くらばこそ疑て解不
可くと圓とモリふ乳歛をう母吳妹も嫁へ郎も名く名手をす
國の便とまく種の物終う四人の人よ聞れ、忠ちと貞送

章ふるさく不例の章と曰ひ一姓麻壁ひびく巡う登金の婦とま
何生じて應せんとあ惑せ一がて何と圖ても麻壁後ふや上ね等
與るゆくづれも立内もれ、精合もあまく、うれしかくをやべて
引くもひづれもひづれもひづれもひづれもひづれもひづれも
郎も娘ともめねえ、私後品(私後品)あく一も娘ちの恩と報んとものもあく
娘ちの恩と報んとものもあくとまずて吳妹麻壁と嫁嫁へ
一ふ直井の古家、追跡とすりよう。孝化孫一早公一松子とみを
被のねう進の業とすりよう。孝化孫一早公一松子とみをと
とあれば麻壁嫁入の事の仇敵何卒ねくをすみ家とすも
初とやさんと番系大学が家来とすりゆくもと飲せそぞ





才出一演

卷之五

廿

詰りと仕うケ探アサリ 本村を進 ましに上方へ 遊電第
彦馬作木の彼小早川一良田松重致と大縁ひて 五中
の兵法師角波一重く用らき付立者 あらわす 告白
は早く歎付四一石立れに品紀を取だ 私もは併往人
とすよ。四人で雪も引天神の度漫て 今日し歎小歎を望
行時も早くに品小立辦(彼小浦) 招童引とや請歎と付て 亡忌
羅の美軌浦せんと是より主役五と多く達とお立体足筋といふ
とてあつて人和太政と接切く歎付人名もとと妻毛筆と打
継く破山料添小早退分(出) 一ノ室通中の筋合とそ
小説人引ひ切ばほも西小斜毛毛バ宿引人の袖と相て
家

方河主(引) と今宵は六波羅新嘉虎の御奉事と
有(あ)ま一出で泊りまで遅し(ゆき)猪子(いのこ)ねとも遅りふけを泊
べ(あ)ま秋(あき)のれを(れ)の様(よう)を明(あ)かめふ記(き)しむれと
夜(よ)遅(おそ)分(ぶん)を小泊(おと)の程(ほど)移(い)う小玉明日(あさひ)候(まわ)本家の所
内(うち)裏(うら)壁(かべ)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)
一と床(ゆか)も(も)べ(べ)ぬ(ぬ)一壁(かべ)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)
すふ様(よう)の(の)えと(と)ね(ね)一壁(かべ)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)の(の)傍(そば)
と六波羅文代の既(じ)初(しょ)後(こう)裏(うら)の(の)は(は)来(く)る(る)一と(と)ハ丁(ひだ)てアシバキ陳(ちん)
亭(てい)白(しろ)宣(あん)の(の)高(たか)竹(たけ)が(が)ふ家(いえ)の(の)役(わざ)と(と)か(か)こ(こ)幕(まく)
エー(エー)小(こ)楊(よう)は(は)被(ひ)遣(けん)し(し)伏(ふ)掛(か)の(の)聲(こゑ)言(い)語(ご)

赤出瀧 卷之五

昔惡一毛を形勢あり直親高祖小松主の後有らるゝも初人定
のうりて何となくひかへり早速本家の頃肉とあらざりや
比良田といふとモトモト小姓付は近のてうらへ河内様ふじや
弓のへふへ足見、尚國主の内は良田れ章野様とその御のま
ありせふ名をもと生えず御相人へ、従う出立をあらす守候
様六波羅左助お海せんと家中皆く吉海正の内中あれ、不れかさ
すう舟又あれ我等が小休へ到りそめん足あらし若無振放して急
きに吏とすう五人の者ハ小踊へて收び寄り列坐して比良田様
亭ふとすう猪負と走せんと云て隊節押送めや陳へ付へも御夜も
刀へて終ひ今夕もあらば甚ふるては出一枝多の纏事の繁

らをあくやふ仰くともちま若ふ故ちるべく手。猪小坡の筋肉
色理些ども、貌宦町史比良田と聞ふ必定ありたる附ハ安益丸
骨被絆うり出立をもとそきの樹石を拾食名案がけて猪負と
人地のほふあて付と云ふたゞ加賀の人ちつとも食と猪人ト猪ぐ一
箇年む良牛もうる某一と防ぎ止人忠市と並りのと追付下と貞
造付手と定め誓ひりて在手、山手の湖水の浪打跡萬葉の松葉本
の事で血あらふねをうち出の度とて君も明廉至もととを洞
して居るふく下向の法士と體透る檜柄小品とそひ經とよま酒の
肉と嗣いて大音あげぬ、一や比良田れ龜引が名畜系ねを以
ふれ軍する直丹波子が和縁の者等の者の株三づ見え今日こそふ

一歌と行人とけ清く尋声小坊貢寺と呼うれ小笠の歌
ぐ人と歌き教され已が罷己とする商業同僚とすて仕事
ふ色ぞ天の恵みをめの五が出生運の歌とほらすふ便
うじ及ば是所でよとがの戸内出んとまどて眼麻壁上の佛堂
うと切付るとひくと清止右の木舟呑牛妻子の歌と利賤
下地切付と流石の良田たうと左原と引種清つ流一ツ切張
二人の女も効一と細法手練のねえ進がた抱持ひを力生ふあ
てえん少バ殊ハ郎傍才の佐富士が歌ひ知れと三人のうち自入て
松を進が清般故まで切拂一匹鹿子がど例とと吳牛麻壁と
切付く吹ふ止と行人と貞送をみけあ人翁の意娘付果し

昔と利ハ歌付の渡櫻も一官吏正術至止モ止めと利も運う
キトヤ都一多々と示刻トう貞送後小ね一猪るの時立う考
今朝未初の法士狼藉ありと六波羅玉きうの酒進何者あうぞ
石捕系主と執權三好彦の下勤と清延付事る来ハ三好の家臣安
西信三郎と云者なり歌付の旅人空いハ皆と利も若一とば
西須がくめとも歌ありと宣ひ一と尋る子細りと西須と云
事実まで裏腰川原とれ累一もその歌も取あうも
父の仇幸うと一七刀限入とすうと下僕ふ止と利主度五人殺げ重
一死病と本被もひ道進とす一石林豪ち唐つあるとて更衣
五人の者と石連と宿（行人とみる安西も接接）一執權の間に歌付

ホリハシ一卷三五

すをへ上六引の子細をうび候く本多の御内もれば彼の指名精
ひり手終へて至ふ役内が若勞と在と左に引れ被候ふく五の
主従盡を盡つ小津られ候く本彼正義をえよし是れ候う
今川家右の件は者と多く通達候一也日あべ候品今川家
より近親の役者とて家主朝烟典膳正本多化と戻る候五人の者
と連ひ候も候くわ勝手をきひ一うど支ふる人を者ともる
毛豆等小内びら玉手一株の節は外内皆良の差とつ物用もられ
萬家の家来ふ然一とを守継室にてね争引が溢る一某家と
五人者されは良時様節とて出生の村とて於地と下へ立つ外四
人の者どもハ強忍ニ至るる大守今川及猪又孙小吉修ふし直送

改く麻理と役者へ西本の家替候一是れも、忠六とおもと
して直井の家再無モトとおもむ意下り主従尽の旨と算さお方
晴翁家富采一某年も因出候事と連ひ

附して曰初巻虚空花令ハ三月十三日と承えといとも後を
相の國く多く、廿二日と余月とと承候ぬ東北にて十二月
多くある故、三月の更に悉くあると承れやうのぞと被候
君子會月の題詠をもとあゆく承るやうと

江陵山人其乐作

尾陽東南井北雲画

木曾駒若説話

初編六冊來卯春癸巳

木曾駒若義兵の後を揚廻に黒光が徳忠漢
啼小方が快力の義兵連携の松島が事実
と詠集セ一縷入るやうり

江陵山人高悦著

先北齋載斗画

萬歳女古狀揃

大本全二冊 近刻

両面折本大全 近刻

懷寶、萬歳曆

當年の新板で経五十年揃にて年との
考事を細記する懷中年代記の隨一なり

著述 南里亭其樂

畫工

浅山

蘆園

筆工

浪速

山田平蔵

印

印

文化十五戊寅年正月新刻

江戸鶴屋金助

尾陽義濃屋伊六

京都秋田屋善七

大政九

秋田屋益衡門

